



国民の森林・国有林

## 令和元年度 第1回 高層湿原保全対策検討会を開催



高層湿原保全対策検討会の様子

6月30日・4日に屋久島町内において、「令和元年度第1回屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会」が開催されました。

この検討会は、日本最南端の高層湿原である花之江河及び小花之江河の状態が急激に変化しつつあることから、湿原の現状及び湿原が形成されたプロセスを把握した上で実効性の高い保全対策等の検討を行うこととして、平成30年度に設置されたもので、水文学・湿原地質の学識経験者や環境省、林野庁(事務局)、鹿児島県、屋久島町の行政機関等で構成されています。

初日の現地視察では、水位の高い時期の湿原の状態、ヤクシ力による採食や踏圧の影響、登山道から湿原内への土砂流入状況、水路及び流路の荒廃状況や水位などを確認した上で、本年度に実施するモニタリング調査(地表水、地下水位、土壌)及び試行的に実施する保全対策箇所を選定作業が行われました。



土壌調査箇所設定の様子



地表水調査箇所設定の様子

モニタリング調査内容及び試行的保全対策の方法等について議論されました。

出席者からは、「高層湿原(特に花之江河)は大雨(5月18日)の後であるのに冠水しておらず水の滞留時間が非常に短いことがわかった。地下水の状況を詳しく調査する必要がある」、「試行的な保全対策の実施に当たっては慎重な配慮が必要」など活発な意見や質問が出されました。今回の検討結果については、7月10日に開催される第1回屋久島世界遺産地域科学委員会で報告される予定です。

(担当)計画課

# 熊本県との意見交換会を開催

【熊本森林管理署・熊本南部森林管理署】6月27日、熊本県庁会議室において、令和元年度の熊本県・九州森林管理局・県内森林管理署の意見交換会を開催し、関係者20名が参加のもと開催しました。

会議は熊本署の藤原昭博総括地域林政調整官の司会進行により、開会にあたり井口真輝計画保全部長から「森林経営管理制度と森林環境譲与税がスタートする中、熊本県の森林・林業政策の課題解決に向けて更に民間が連携するようにお願いする」との挨拶に続き、熊本県の古賀英雄森林局長の挨拶がありました。

続いて事前に配布されていた各機関の令和元年度の重点取組事項等について、事前質問に対し補足説明を行い、それに対する質疑応答を行いました。意見交換では、特に熊本県内の民間共通の課題である主伐・再造林に関する事、森林経営管理制度の推進に関する事、木材の安定供給に関する事、シロ被害対策に関する事を中心に活発な議論を行いました。

熊本県では、本年度からくまもと林業大学の開校など新たな



熊本県との意見交換会の様子

## 事業者との意見交換会を開催

政策展開が開始されており、改めて民間が連携・協力することを確認して有意義な意見交換会になりました。

【宮崎北部森林管理署】6月19日、当署会議室において、事業

担当職員と事業体現場代理人等15人が参加して、意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、国有林野事業県北地区事業体の要望により、今後の生産性向上及び円滑な事業推進を図る目的で毎年開

いているものです。

当日は、労働安全衛生規則の一部改正に伴い、受け口を作るべき立木の対象が胸高直径20cm以上のものに変更されること、下肢の切削防止用保護衣の着用が義務づけられること等の労働安全についての他に、社会保険関係について担当職員より説明を行いました。

また、事業者から事前に受けた、システム販売のトラック配車について等の質問に対して、担当職員から回答・説明を行いました。質疑応答の場面では、現場代理人から日頃現場で感じている問題点や改善点について活発な意見が



## 国有林防災ボランティア活動内容を確認

数多く出され、事業の遂行にありたり有意義な意見交換会となりました。

【大分森林管理署】6月5日、

大分森林管理署会議室において、国有林防災ボランティア協定者の(一社)熊本林業土木協会員の、清川産業(株) 江藤龍治代表取締役、(株)菅厚組 田中悟 電力工事課長に出席いただき、大分森林管理署から、坂本和隆署長をはじめ、治山事業、林道事業の各担当者7名が出席し、総勢9名により、自然災害に備えた国有林防災ボランティア活動の内容を確認しました。

## 冒頭挨拶をする後藤総括森林整備官

はじめに、坂本署長から「梅雨期の集中豪雨等による被害発生時に、協定の目的にある地域の安全の確保・向上を図るため、皆様方には安全に活動していただく必要があります。限られた時間ではありますが、活動にあたっての留意事項などについて打ち合わせをお願いします」と挨拶がありました。

つづいて、竹原敬一郎総括治山技術官から、本日の打ち合わせの趣旨と自然災

害が発生した場合の、国有林の位置関係や人家等へ被害の有無、応急対策など、迅速な被害状況の把握が重要であることを説明しました。

打ち合わせでは、梅雨入りを目前にして、自然災害が発生した場合の連絡体制や国有林防災ボランティア活動範囲の確認、活動の班編成、安全対策について確認しました。



冒頭挨拶をする坂本署長

本日の活動内容の確認(備え)が、非常時に迅速かつ機動的な活動につながることに、当署においても管内の山地災害危険地区を優先的に巡視を行い、地域住民が安全で安心して生活できるように取り組むことにしています。



# 令和元年度 林野庁職員定期表彰式



## 林野庁職員定期表彰式を開催 ★永年勤続30年15人 20年5人を農林水産大臣表彰



式辞を述べる原田局長

6月13日、令和元年度林野庁職員定期表彰式が開かれ、永年勤続30年15人と20年5人を表彰しました。

式典は、当局大会議室において永年勤続30年受賞者、及び局幹部出席のもと執り行われました。

式典では、はじめに原田隆行九州森林管理局長より「この度、永年勤続表彰を受賞されます皆様には、三十有余年の永きにわたり、国有林野事業の各般の事務・事業に真摯に取り組み、その努力・労苦に対し敬意と感謝の意を表するとともに、支えてこられたご家族の皆様にも感謝の意を表する。

今後、皆様方には、それぞれの部署の中核として、経験と知

識を発揮され、活躍されることを期待するとともに、健康に留意され職場や家庭において充実した日々を送られることを願う」との式辞がありました。

次に、永年勤続表彰状の授与が行われ、受賞者全員に農林水産大臣表彰状が伝達されました。

その後、お祝いのメッセージ披露が行われました。

最後に、九州森林管理局治山課の松岡良二技官が「受賞者としてこの式典に参列できたことは、この上ない栄誉であります。



代表して答辞を述べる松岡技官

今、森林・林業はかつてない変革の時期を迎えており、林業の成長産業化、森林・林業再生への貢献に寄与するとともに、本日の感激を糧に、国民の財産である豊かな森林を未来に引き継ぐため、更に全力を傾けて参ります」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典は終わりました。

今年度の受賞者は次のとおり  
**農林水産大臣賞（勤続30年）**

河内勝秀（経理課）

加藤吉征（計画課）

甲斐和幸（保全課）

松岡良二（治山課）

山脇 寿（佐賀署）

草野正揮（熊本南部署）

井上祐二郎（熊本南部署）

高瀬智品（大分西部署）

山本 歩（宮崎署）

中西秀博（宮崎南部署）

戸島章治（北薩署）

山口輝文（鹿児島署）

那須芳広（大隅署）

浅尾純治（屋久島署）

満留 豊（大隅署）

**農林水産大臣賞（勤続20年）**

橋口逸成（治山課）

本田末広（大分西部署）

岩崎正二（西都児湯署）

歌野国光（宮崎署）

木崎慎一（大隅署）

（担当）総務課

# 森林技術指導官等会議を開催

〜地域課題を共有し、一層の連携を密にし〜

【宮崎森林管理署】5月27・28日宮崎森林管理署において、宮崎県内の森林管理署等の森林技術指導官及び地域林政調整官等7名の出席により、森林技術指導官等会議を開催しました。

当会議は、宮崎県内森林管理署等における民国連携の円滑な推進や森林経営管理制度（新たな森林管理システム）への国有林の関わり方の検討及び宮崎県内のフォレストスター等の円滑な連携推進等を図り、もって宮崎の森林の整備・保全と林業の成長産業化に資することを目的に、



森林技術指導官等会議の様子

日頃は個々に活動している各署の民国連携推進担当者が集まり県内で初めて開催したものです。冒頭、飯千好徳宮崎森林管理署長より、「4月から森林経営管理制度がスタートし、これまでに以上に国有林の職員に民国連携が求められる、森林技術指導等の役割をしっかりと踏まえ地域課題の解決に向けて、宮崎県や地元自治体と益々連携を深めながら対応していただきたい」旨の挨拶がありました。

会議初日は、各署等の民国連携業務の取り組みの紹介、森林経営管理制度に係る県内での動き、宮崎県合法伐採推進対策に関する協定の運用等について意見交換を行いました。さらに、6月末に開催予定の宮崎県との意見交換会について打合せを行いました。

二日目は、綾町にあるユネスコエコパークセンターにおいて、同推進室の河野円樹主任主事より、展示施設の説明やこれまでの経過と取り組み状況、国有林野事業との関わり等について説明をして頂き意見交換を行いました。



河野主任主事より説明を受ける職員

引き続き、サテライト室において、宮崎署でのケーススタディや綾プロの取り組みについて、担当者からの説明の後、意見交換を行いました。

## レクリエーションの森 協議会総会を開催

【熊本森林管理署】当署管内には、くまもと自然林養林と木原山風景林の2箇所のレクリエーションの森がありますが、両方とも「日本美しの森・お薦め国有林」（モデルレク森）として外国人観光客の取り込みも目指して、多言語看板の設置などの



雁回山周辺地域整備連絡協議会総会の様子

環境整備や情報発信等を実施しています。

このような中、6月4日に木原山風景林を管理する雁回山周辺地域整備連絡協議会の令和元年度の総会が、宇城市役所会議室において関係者15名が参加して開催されました。総会では、平成30年度事業報告や収支決算令和元年度の事業計画及び収支予算等について審議が行われ原案のとおり了承されました。また、全8コースある歩道のうち通行不能になっている城南コースの変更及びそれに伴う整備について意見交換されました。

また6月6日には菊池市内に池溪谷を美しくする保護管理協議会の令和元年度の総会が関係者20名が参加して開催されました。総会では、平成30年度の事業報告等の通常の議事の他に、維持管理協力金の見直しや大雨等発生時の入谷基準の設定について審議されました。なお菊池溪谷内では、本年度にきくち溪谷館の建て替えや右岸歩道の整備、多言語案内及びサイン看板の設置を予定しています。

当署としては、引き続きレク森協議会をはじめ関係機関と連携・協力して、レク森がますます活性化して地域発展の一役になるよう取り組んでいく考えです。



くまもと自然林養林菊池溪谷を美しくする保護管理協議会総会の様子

# 「くじゅう山開き」 久住山で山頂祭開催

【大分森林管理署・大分西部森林管理署】6月2日、くじゅう山

観光連盟主催（会長・日野康志 九重町長）により、第67回「くじゅう山開き」山頂祭が、久住山（1787m）山頂で開催され、九重町、竹田市、竹田警察署、玖珠警察署、大分県環境省など関係機関・団体の代表者が出席して山頂祭が行われ

本格的な登山シーズンがスタートしました。

大分森林管理署から坂本和隆署長、永田豊次長の2名、大分西部森林管理署から益田健太署長をはじめ8名、両森林管理署から10名の職員が出席しました。

前夜祭の1日は、遭難者追悼慰霊祭及び前夜祭イベントが長者原で執り行われ、追悼慰霊祭では、大分西部署長が「遭難者に思いを致し、登山者に安全にくじゅう連山を楽しんでもらえるようにそれぞれの立場で取り組んでいきたい」と挨拶を述べました。



山頂祭の様子

地域財産です。本日は、雨模様ですがこれも陽の光や星空と同様に天の恵み、また、ミヤマキリシマはじめ貴重な生態系を育む森と大地にあふれる「くじゅう」を健康と安全に気を付けて愛しんで楽しんでいただき、九重町、竹田市はじめ地域の発展に繋がることを祈念します」と祝辞を述べました。

その後、竹田警察署長を筆頭に最年長者などの掛け声で万歳三唱で式典を盛り上げました。

式典終了後、事務局で準備した記念品（ペナント）の配布があり、ペナントには「令和元年」とプリントされており、受け取った登山者は新しい時代の記念になりますと大喜びでした。

これから本格的な夏山のシーズンとなり、季節の移り変わるくじゅう連山の自然を楽しむことができます。



咲き誇るミヤマキリシマ

つづいて、大分署長から「くじゅう連山の多くは国有林で、国民の財産

## 下刈り機械実証 試験に参加

【大分西部森林管理署】6月18日、日田市天瀬町の民有林で、大分西部流域活性化センターによる下刈り機械実証試験に参加しました。

同センターでは、林業の成長産業化を図る上で、労務やコストの面で課題となっている下刈りについて、機械による下刈りの実証試験に取り組んでいます。当日は、（株）筑水キャニコム、福岡シマントック（株）から、アタッチメントの取り替えにより下刈りや伐根の粉碎、残材や苗の集材・運搬といった林内作業に使用できる機械や、4



下刈り機械の稼働状況を実演

つの車輪がそれぞれ駆動して全方向への移動でリモコンによる遠隔操作も可能な刈り払い機械が用意され、県や市町村、林業事業者からの多くの参加者が見守る中、それぞれ林地での稼働状況を実演しました。

実証試験地は傾斜が比較的なだらかでしたが、各機械はそれぞれ順調に稼働して、植栽木周辺の雑灌木を刈り払っていました。昨年までの取組では、刈り払い機械の稼働には伐根等が支障となる場面もありましたが、実演していただいたメーカーの担当者からは、伐根を粉碎する機械との組合せにより、刈り払い機械の性能も十分に発揮することが期待されるとのことでした。

伐木、造材、集材といった木材の生産過程の機械化は進んでいます。下刈りをはじめとする造林・育林過程の作業は、依然として労働負担が大きく、林業事業者の定着や伐って植える循環の確立を妨げる要因とも指摘されています。作業の機械化は、労働負担の軽減や安全の確保、ひいては林業の成長産業化に有効、不可欠であり、当署でも、地域の林業関係者の一員として、技術開発の情報を積極的に受信していく考えです。

# モニターの声



## 地域の人々に自然や森林の大切さを伝えたい！

私はふくおか森林インストラクター会に所属し、県内の子供たちや中高年の人たちに自然や森林の大切さを伝えるボランティア活動をしています。先日、某小学校で森林環境教育の一環として公園内でマテバシイの木を説明している際、先生から「ドングリの木というものがあり、その木からドングリができる」と思っていた。ドングりに種類があるなんて



中村 美幸さん

従事して来ました。自然と森林との出会いは49歳の時に大病を患い、健康の大切さを

初めて知った」との発言があり、びっくりしました。あまりにも自然や森林の素晴らしさや恩恵や問題も知らないで暮らしている人々がいることを見聞きし、自然や森林の問題をもっと知ろうと思い、昨年度、国有林モニターに応募しました。

■自然や森林との出会い  
私は自然や森林と全く縁のない化学会社で人工の合成物の研究に

■自然と森林に出会い、資格取得  
自然と森林に出会い、少し興味を持ち始めたのは58歳頃でしょうか。まだ、会社勤めをしていたので、自然や森林に触れるのは土日であり、実践的な自然や森林の活動はやれずいました。そこで、自然や森林に関する資格試験、例えば、森林インストラクター、森林セラピストなどの資格・

■自然や森林に関する資格取得  
自然と森林に出会い、少し興味を持ち始めたのは58歳頃でしょうか。まだ、会社勤めをしていたので、自然や森林に触れるのは土日であり、実践的な自然や森林の活動はやれずいました。そこで、自然や森林に関する資格試験、例えば、森林インストラクター、森林セラピストなどの資格・

■森林インストラクターとしての活動  
63歳の時に東京から実家のある福岡県行橋市に帰り、ふくおか森林インストラクター会に入会し、実践の活動を始めました。ふくおか森林インストラクター会の目的は上述のとおり、地域の人々に自然や森の大切さを伝えることです。伝える年代により、取り上げる題材は異なりますが、どうしてもマンネリ化すると共に、森林に関する情報に気づかないことが多いです。

■最新の森林に関する問題や新しい企画情報の入手  
そこで、貴局の各森林管理署の情報が得られれば当会の活動の幅が広がるのではないかと考えました。実際、

■まとめ  
今後も「山はみんなのもの」をキャッチフレーズに貴局の情報を活用し、地域の人々に自然や森林の大切さを伝えていきたい。

(行橋市在住)



実行委員会の様子

「みんなで創ろう！ツツ葉の森林」実行委員会を開催  
【宮崎森林管理署】5月24日、当署において「みんなで創ろう！ツツ葉の森林」実行委員会を開催しました（事務局・宮崎森林管理署）。

この委員会は、先人が残した貴重な財産である「ツツ葉の森林」（民有林含む総面積830ha）を地元自治体、地域住民、民間団体と国有林が連携し、国民の憩いの場・レクリエーションの場として利用されているツツ葉の森林について、その具体的な森林整備・環境整備・美化活動の方策について話し合うことを目的として毎年開催しています。

委員会では、まず事務局を努めている渡邊明森林整備官より、当署の事業を含む昨年度の取り組みの報告と、今年度も、引き続き森林整備や一斉清掃及び植樹等の活動を予定していることについて説明しました。

続いて、参加者それぞれの取り組みについて、お互いに情報提供し意見交換を行いました。

メンバーからは、一ツ葉の森林が大陸からの渡り鳥も含め30種類以上の野鳥が訪れる貴重な場所となっていることの紹介や、一方で、問題となっている松くい虫等による松枯れ被害の最近の発生状況（傾向）や被害対策について活発な議論が交わされました。

最後に、地元の貴重な財産である森林を守っていくために、参加者全員が連携・協力して森林づくりを進めていくことを確認し閉会しました。

## 屋久島地杉苗木生産協議会総会を開催

【屋久島森林管理署】6月26日、屋久島森林管理署会議室において第2回屋久島地杉苗木生産協議会総会を、屋久島町内の苗木生産事業体の協議会メンバーとオブザーバーとして当署・保全センター、鹿児島県及び屋久島町の行政関係者を加えた15人が



総会の様子

参加して開催しました。

協議会では、事務局の屋久島森林組合寺田久志総務課長の司会進行で進められ、まず、会長代理で池田造園建設池田春光取締役の挨拶のあと平成30年度事業実績、会計報告及び令和元年度計画について協議を行いました。さらに、苗木本数の現在の状況やコンテナ購入時の補助について、行政関係者も交えて活発な意見交換を行い、原案のとおり承認されました。

続いて、保全センターの奥村克生態系管理指導官から現在までのコンテナによる挿し木試験の状況について説明を受けました。

最後に、役員改選を行い、新会長に橋口木材加工センター橋口猛代表取締役を選任し新体制のもと協議会がスタートしました。

## 五木地域森林整備推進協定 3WG会議を開催

【熊本南部森林管理署】6月17日、当署会議室において、五木地域森林整備推進協定の第1回3WG会議を開き、五木村ほか各協定締結者と、県球磨地域振興局林務課を含めた30人が出席しました。

冒頭、工藤孝熊本南部森林管理署長より当地域の協定面積は2万haを超え、更に進化していくよう忌憚のない意見をお願いしたい。

続いて九州森林管理局の久保

芳文森林整備部長より、五木地域森林整備推進協定は当局の中でも重要な取り組みの一つに位置づけている。引き続き地域の関係者と一体となって林業の成長産業化に向け盛り上げていきたい。との挨拶の後、令和元年度の取り組み事項と実施スケジュールについて、共通図面の修正と確認、日本製紙木材（株）大澤所長代理による4月に実施した移动式チップパーでの試験報告、協定エリア内の立木

販売情報、昨年度実施した協調出荷販売の効果について報告があり、協定期からは、協調出荷・直送販売の必要性を改めて確認しました。

その後、共通図面を囲み、

### 共通図面を囲んでの検討会の様子



冒頭挨拶をする工藤署長

各協定者より令和4年度までの事業予定地の説明がなされ、協調出荷、高性能林業機械の共同運用、路網連結の可能性等について意見を交換しました。

最後に、シラ被害対策協定に基づく捕獲実績の報告、原木供給シンクタンク設立に向けた検討状況について、パーパーポット苗導入の実施予定等、林業の成長産業化に向けた具体的な取り組みを更に推進することを確認し会議を終了しました。

（注）3WG会議とは、森林情報活用WG・路網戦略WG・コスト低減WGの総称

## 林業遺産現地 検討会を開催

【屋久島森林管理署】当署の有林野内にある森林軌道や事業所、宿舎、小中学校跡さらに屋久島の林業を記録した古写真等については、平成29年5月に日本森林学会より林業遺産「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」として認定されています。

このような中6月10日に、本年度の現地調査等を開始するにあたり、署関係者16人と熊本支庁屋久島事務所、屋久島町教育委員会が参加して林業遺産に関する情報共有や今後の対応方針等を検討するため、国立歴史民俗博物館の柴崎茂光准教授と鹿児島大学の奥山洋一郎助教の



現地での検討会の様子

指導を受けて現地検討会を開催しました。

検討会は春牧森林事務所部内の太志嶽国有林内で開催し、西純一郎屋久島森林管理署長から現在検討中の林業遺産の保全管理方針案等について、柴崎准教授から林業遺産全般についての説明を受けるとともに、森林軌道跡、事業所跡、石切場、また5月18日の豪雨で流出した千頭山（ちがみやま）橋の踏査を行いました。

続いて、遺産区域内からこれまで収集された林業道具や生活物品などが仮收藏されている旧小瀬田中学校に場所を移動して、柴崎准教授から収蔵されている林業遺産の内容、リスト作成などの保存方法等について説明を受け、参加者全員で林業遺産に関する情報共有を図るとともに、本年度の調査方針等の確認を行うことが出来ました。

当署としては、今後とも関係機関や研究者と連携しながら認定された林業遺産を適切に保全して、後生にその価値が受け継がれていくように努めていく考えです。

## 交通法令講習会 を開催

【宮崎南部森林管理署】7月2日、当署会議室において、日南警察署から榎木田治警部補を講師に招き、交通法令講習会を行いました。

この講習は、当署の「健康安全管理計画書」に基づくもので当日行った安全衛生大会の中で実施し、署内職員31名が参加しました。



「動画KYT」を活用した講習会の様子

講習では、宮崎県警察本部が昨年度導入した「動画KYT」（事故の危険を察知する体験型訓練ができる機器）により、様々な場面を想定して危険を予測す

る訓練を体験しました。また、携帯電話使用等に関する罰則を強化するため道路交通法が改正され、年内に施行されること等を学びました。

このような講習を通じて、職員の無事故・無違反に繋がるよう取り組んでいきたいと考えています。

## 安全大会を開催

【大分森林管理署】7月1日、大分森林管理署会議室において、本署、各森林事務所所属職員出席のもと令和元年度安全大会を開催しました。

はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から、「本年度の安全週間にあたり、『重大災害の絶滅』『ゼロ災の達成』『心とからだの健康』の保持増進」の3点を本年度の健康安全管理重点目標として取り組んでいるところと、林野庁の入口カン（当署・工藤昭二行政専門員作品）のとおり、技

術と一緒に心のセンサーをさらに磨いて、健康で災害のない明るい職場作りに引き続きみんなで取り組もう」と挨拶。

挨拶のあと、原田隆行九州森林管理局長からのメッセージを坂本署長が代読して出席者に周知を行いました。

また、多数応募（61点）のあった安全標語の中から、多くの共感を得た入選作6点の発表を行いました。

つづいて、一般救急講習として、大分市中央消防署から紙渡さん、坂田さん、古庄さん3名を講師に招き、救急法の講習を



救急法の講習の様子





齋藤交通安全係長による法令講習の様子

招き、大分県内の交通事故発生状況、交通事故の形態の分析の説明がありました。交通事故では、高齢者が関わる「車対車」「車対人」「自過失」の事故が増加傾向にある。安全不確認、速度超過などが原因となっている現状を学びました。車を運転する場合は、「認知」「判断」「運転操作」するが、想定外のこともあり得るので危険予知も考えて事故がないように安全運転をお願いします。

いただきました。  
大分市中央消防署管内の現状の説明があり、救急出動回数は年間約19000回、心肺蘇生は年間約400回と説明がありました。

また、救急車の要請では「傷病者の確実な場所」を伝えて欲しい、その時点で出発し救命に向かうと救命体制の説明がありました。その後、胸骨圧迫方法を実演をいただき、初動の協力要請、AEDの使用方法を学びました。

交通法令講習では、大分中央警察署から齋藤交通安全係長を

田吹涼

太技官が「安全大会宣言」を読み上げ、木下昂太技官が「ゼロ災コール」を行って、本年度の大分森林管理署ゼロ災を目指して取り組むこととしました。

## 有害鳥獣捕獲研修会を開催

【熊本南部森林管理署】6月11日当署において、受講対象者5名を対象に有害鳥獣捕獲研修を行いました。はじめに署会議室で高木周一次長、草野正揮主任森林整備官を講師として座学研修を行い、その後大塚森林事務

所管内の現場に移し池田健太郎行政専門員により電気止め刺し機の使用方法和、くくり罠設置の実技指導が行われました。実演では、伊藤明雄地域技術官が当日朝捕れたシカを指導された手順で電気止め刺し機により実際に止め刺しを行い埋設するなど、なかなか経験することができない初めての体験をしました。また、くくり罠の設置では、罠設置時の留意点やシカの性質を踏まえた設置場所の工夫等の指導受けながら設置を行いました。

【屋久島森林管理署】7月3日、屋久島地域森林整備推進協定の令和元年度第1回運営会議を、協定者である当署、屋久島町、鹿児島県森林整備公社、屋久島森林組合の関係者23人が参加して、鹿児島県屋久島事務所会議室で開催しました。

## 屋久島地域森林整備推進協定の運営会議を開催

に地元猟友会等、関係機関と連携しながら有害鳥獣捕獲に取り組む方針です。

久島内の地杉苗の現在の生産状況、奥岳252林道の現在の施工状況等を説明し、今後の民間連携した森林施業につなげていくこと等を説明しました。続いて意見交換に入り、離島が持つハンディの解消、年間の林業事業体の事業量等に関する活発な意見交換を行うことができました。最後に参加者全員で次期森林整備計画での情報共有や主伐・再造林の促進等について確認を行いました。次回は共同施業実施後の現地検討を予定しています。



電気止め刺し作業手順説明の様子

冒頭西純一郎署長の挨拶の後、各協定機関から平成30年度の事業実績及び平成31年度の事業計画が報告されました。また、本年度の第2回運営会議で検討を行った協定区域内での国有林内の分収造林と民有林の共同施業を本年度実行に向けての具体的な検討や屋



運営会議の様子

# 「森を身近に！森のセミナー」を開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において、6月29日に山の日記念イベント「森を身近に！森のセミナー」を開催しました。講師に、環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、一般参加者を含む総勢42名が参加しました。



乙益先生による貴重な植物についての講話の様子

はじめにコケ玉作りの実習を行い、ミスゴケや腐葉土を丸めてヒノキシダやイロハモミジの苗を植え、大きささまざまな個性的なコケ玉が完成しました。そのあと、プラスチック容器

に腐葉土を敷きサツマシダとオオタニワタリの胞子をまいて密封する胞子栽培を行いました。

最後に、乙益先生により「貴重な植物の話」として、絶滅危惧にある植物の話から薬草、毒草など、人間生活とのかかわりについて講演をしていただきました。

植物には、医療の面など様々な可能性があり、その植物が絶

滅することは人類にとって大きな損失であると話を締められると、参加者から薬草に関する質問が多く出され、健康に関する興味の高さが伺えるなど有意義なセミナーになりました。



真剣に「コケ玉」を作る参加者

## 都会の中の緑の森 監物台樹木園の 多様な植物

名前には「カシ」がついていますが、ブナ科でなくクスノキ科に属する樹木です。葉の3行脈が発達していることからクスノキ科であることが判断できます。



表面は緑色で裏面は3行脈がはっきりしており帯白色となっています。花は紅色で、葉腋から3〜5個、ほとんど無柄、一見すると幹から直接花柄を出して咲かせているようです。雌雄異株の樹木で、10月から11月に果実は紫黒色に熟します。

植物の名前に「イヌ」がついている場合は、他に本物があり、それに比較して劣る場合に名前の前にイヌがつけられます。イヌカシの場合は「カシ」に似ているが本物でないことからつけられた名前です。しかしクスノキ科ですから葉を揉んで嗅ぐとよいにおいがします。葉の匂いを嗅ぐときは、匂いの成分は葉

## 140 イヌカシ(クスノキ科)

に閉じ込められているので、葉をもんでから嗅ぐことが大事です。イヌカシは、シロダモ、ヤブニッケイと似ていますが、花は春に咲き、紅色、果実は紫黒色に熟すことで区別することができます。



森林インストラクター  
安条 行雄

## みどりの散歩路

蒸し暑さが残る今日この頃ですが、ふと夜空を眺めると満天の星空の中に燦爛と輝く「天の川」が見えます▼日本の「たなばた」は、奈良時代に中国から伝わった七夕が、元からあった日本の棚機津女(たなばたつめ)の伝説と合わさって生まれまし

た▼「たなばた」の語源は『古事記』でアメノワカヒコが死にアチスキタカヒコネが来た折に詠まれた歌にある「淤登多那婆多」(弟棚機)又は『日本書紀』葦原中国平定の1書第1にある「乙登多奈婆多」また、お盆の精霊棚とその幡から棚幡といわれています▼また、『万葉集』巻10春雑歌2080(「織女之今夜相奈婆 如常 明日乎阻而 年者將長」)「たなばたの今夜あひなばつねのごと明日をへだてて年は長けむ」など七夕に纏わる歌が存在します▼元来「たなばた」は、7月6日の夜から7日の早朝の間に行われ、午前1時頃には天頂付近に主要な星が上り、天の川、牽牛星、織女星の三つが最も見頃になる時間帯でもあります。夜遅く星空を眺めてはいかがでしょうか。

【NI】